

日山神明宮

〔粟田口にあり。鎮坐の義年歴久遠にして詳ならず。社記に曰、神功皇后三韓退治の祈として御禊あ

り。其後天智帝行幸ありて日山の号を賜り、宮殿造営あり。又天武帝も清見原遷都の御時、御祈願あり。それより年累りて建武の頃、当所の社司官軍に荷担して、新田義貞と共に北国に下り帰国せず、当社衰微に及びし所、野呂左衛門宗光信仰して再営す。宗光が子孫靈夢を蒙り、これより野呂氏代々社司を勤む。元和年中金地院の本光国師に台命あつて増地を賜ふ〕

影向石

〔鳥井の左にあり〕神木〔南天、山茶花、八股杉当山にあり〕

宇治橋

〔当社の入口にあり、坂路に桜紅葉多し〕

明智光秀塚

〔同所黒谷道の東三町許にあり、光秀が頭を此所に梟し所なり。近年明田氏といふ人此地に住しが、

今又白川橋三条の南へ古墳と共に遷す〕

小鍛冶宗近水

〔同所仏光寺墓所門前の西、石垣の下にあり、此地いにしへ宗近が宅なりとぞ〕

## 花頂山

〔粟田山の西、青蓮院の後山をいふ。華頂山とは法華玄義科に華頂仏壘と出たり、補注曰、天台山西南の隅

に一峯あり、仏壘となづく、其山に遊ぶもの多く仏像を見る。又注画讚曰、天台山最峯の所、四時花あり、故に花頂と名づくといふ〕

〔応仁記云、三井御門徒には、円満院、聖護院、花頂、実相、若王寺、吉田、靈山、近衛坂、中にも花頂山は唐の天台

山を移して、嶺にも尾にも雲の端の咲うづもれて、夕日影薨に花の照そふけしき又いはん方なし。又曰、寛正六年三月四日、將軍義政公花頂山の花を御覽とあり。土人云、今粟田口天王社のひがし山の麓に池あり、今は田圃となれり、是いにしへの花頂院の旧跡となり〕

## 比丘尼坂

〔粟田口神明山に到る西一町、大路の小坂をいふ。古此地比丘尼住して往来の人に勧進す、後世建仁寺町

松原の南にうつる〕

## 將軍塚

〔粟田花頂山の峯にあり、塚上凹にして老松四五株あり。桓武帝の御時平安城久延なるべきとて、土にて八

尺の人形を作り、鉄の鎧冑を着せ、弓箭を持せて当山の峯に西向にして埋まれける、是れ此京の守護神とす。されば天下に災害あらん時は塚かならず鳴動すといふ〕

青蓮院しやうれん ぶん

〔粟田御領の御門跡なり〕天台宗にして、始祖は伝教大師でんけうだいし、中興は大僧正行玄和尚ぎやうげんなり。〔此人大織冠十三

世の嫡孫きやうごくせつしやうもろごね撰正師実公の息男なり、山門四十八世保延四年十月廿九日座主に任ず、治山十七年なり。第二かくくわい覺快法親王、

第三大僧正慈鎮じちん、それより代々法親王御治職として山門の座主たり〕

耕雲草菴かううんのさうあん

〔花頂山くわちやうの奥に旧趾あり、耕雲は権大納言右大将かううん（南朝補任）藤原長親卿ふちはらながらか、法名は明魏みやうぎ、又耕雲と号す〕

耕雲読方云 此十とせあまり、白川しらかはの東、花頂山くわちやうさんの奥に幻質をかくし、鹿豕に友をむすび、泉石にこゝろをすまして

あかしくらす。〔応永十五年〕

在原行平卿亭ありはらのゆきひらきやうのてい

〔鴨川かもがはのほとりのよし三代実録に見へたり。今定かならず〕

堤河つゝみがは

〔鴨川かもがはをいふ、又近川とも、近き河原とも和歌によめり〕

源氏物語常夏卷云 にし川より奉れるあゆちかき川のいしふしやうのもの、御まへにててうしてまいらす。

六 帖 月ごとのな、せのみそぎ絶せねばまことに近き河原とやみん 信 実

祓殿はらひどの

〔鴨川かもがはの東の辺、姉小路あねがこうちの末となん。むかし大嘗会御禊の所なり、百練抄に見へたり。又黒谷伝云、法然上人ほふねん

の弟子心寂しんじやく、姉小路あねがこうち白河祓殿かはらひどの辻子つじといふ所に籠り居る〕